



<圏域内の市町村による取組事例>

介護予防・日常生活支援総合事業（通所サービスC）	木古内町
<p>&lt;取組の背景&gt;</p> <p>本町は比較的温暖な地域で、津軽海峡をはじめとする豊かな自然に囲まれ、農業、漁業、林業が中心産業。公的病院、鉄道、新幹線の駅が有り利便性が良い。令和5年7月末現在、人口3,663人、高齢化率50.83%であり、道内でも高齢化率が高くなっている。そのため、要支援判定の利用者が増加しており、介護予防・日常生活支援総合事業における介護予防サービスの重要性が高まっていることから、当町においては、介護予防教室の実施を継続していく他、令和元年より通所型サービスC（短期集中サービス）を開始した。</p> <p>&lt;取組の内容&gt;</p> <p>地域包括支援センターの職員（3職種）で、事前にサービスの必要性があると思われる町民をアセスメントし、対象者を選定。外部講師を招き、2クール（12回/クール）とし、専門的指示のもと対象者へ指導を実施している。</p> <p>&lt;工夫している点&gt;</p> <p>フィットネスチューブ「モビバン」を取り入れて外部講師が指導を行っている。 自宅でも継続して運動を行えるように、参加者へ外部講師作成の資料を配布している。 遠方の参加者には送迎対応を実施。</p> <p>&lt;実感している効果&gt;</p> <p>参加者の開始時と開始後の体力測定では維持や握力のアップ等がみられている。</p>	
<p>執筆協力：木古内町</p>	
<p>&lt;取組の様子&gt;</p> <div data-bbox="167 1317 798 1780"></div> <div data-bbox="810 1317 1441 1780"></div>	

## <圏域内の市町村による取組事例>

医療介護連携体制構築に向けた医療介護連絡会	江差町
<p>&lt;取組の背景&gt;</p> <p>本町は、人口6,815人、高齢化率40.6%（令和5年3月時点）で北海道南西部に位置しています。気候は、対馬暖流の影響を受け、年平均気温は10℃前後と、北海道の中では温暖な地域ですが、冬季は北西から季節風が強く吹きます。</p> <p>また、本町は医療機関が4か所、在宅施設サービス事業所も近隣町よりは多くありますが、本町のみでは24時間在宅医療介護体制整備が難しい現状にあります。</p> <p>&lt;取組の内容&gt;</p> <p>高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最期まで続けることができるよう、切れ目のない医療と介護の提供体制の構築を目的として町内の医療機関と在宅施設サービス事業所等と、年4回勉強会や情報交換などの連絡会を開催している。</p> <p>&lt;工夫している点&gt;</p> <p>町内の主任ケアマネ会の方々に協力いただき、企画・運営を担ってもらっている。</p> <p>医療介護の専門職が関係する制度について（成年後見制度等）の勉強会等、テーマを参加者のニーズや社会情勢に合わせて設定している。</p> <p>年1回は町内の医療機関の医師に協力いただき、講演会や意見交換会を開催し、多職種の現状や今後の体制構築に向けて取り組みを実施している。</p> <p>平成24年度から開始され、コロナ禍ではリモート開催や通信を使用し、参加しやすい方法や継続的に実施できる方法を模索しながら開催している。</p> <p>&lt;実感している効果&gt;</p> <p>毎回、アンケートを実施。アンケート結果は好評。</p> <p>医師の発案からリモートでの月1回ケースカンファレンス開催に繋がっています。困難事例等から参加者で情報共有や課題解決に向けて、話し合える新たな場に繋がっている。</p> <p>顔の見える関係づくりとなり、お互いに連携がとりやすくなっていると感じている。</p>	
<p>執筆協力：江差町</p>	
<p>&lt;取組の様子&gt;</p> 	

<圏域内の市町村による取組事例>

地域リハビリテーション活動支援事業を活用した介護予防強化の取り組み	八雲町
<p>&lt;取組の背景&gt;</p> <p>八雲町熊石地域は人口1,851人、高齢化率59.32%（令和5年6月）と高く、介護予防の強化が急務である。本地域は、八雲地域と人口構成や生活圏域が大きく異なり、医療介護の社会資源が乏しく、医療機関、介護施設、通所介護事業所、訪問介護事業所が其々1か所のみで、医療系サービス（看護・リハビリ・調剤）は他町に依存している状況で、マンパワーも含め脆弱な地域である。</p> <p>&lt;取組の内容&gt;</p> <p>八雲総合病院と委託契約を行い、病院のリハビリテーション専門職が地域リハビリテーション活動支援事業を以下の通り実施している。</p> <p><b>地域ケア会議</b>          自立支援に向けた介護予防事例の検討</p> <p><b>短期集中型訪問型サービス</b>          フレイル、要支援1.2の方を対象に自宅訪問、必要な時は通所場面でも個別支援を行う。</p> <p><b>ケアマネ同行訪問</b>          ケアプランへの助言を受け重症化の防止を図る</p> <p><b>住民集いの場への介入</b>          フレイル講話や体力測定、体操の指導</p> <p><b>70・75歳誕生日訪問事業</b>          プレフレイルやフレイルの方の早期把握と支援方法の助言指導</p> <p>※年1回は事業全体の実績をまとめ、評価を行い次年度の事業を計画している。</p> <p>&lt;工夫している点&gt;</p> <p>Zoomを利用し地域ケア会議を行うことで、感染予防や悪天候の影響をうけず予定通り開催できている。また、地域ケア会議では動画や写真を活用、多職種が理解しやすいよう課題整理総括表を利用。検討した事例はモニタリングを行い、地域ケア会議で報告している。</p> <p>&lt;実感している効果&gt;</p> <p>ケアマネはじめ医療・介護・保健の関係者が「自立支援」を意識できるようになり、できないことをサポートするだけでなく、どんな工夫をすることでできるのか、この部分ならできないのではないかなど、検討する視点に変化がみられてきた。そのため、R4年度地域ケア会議や短期集中型訪問を利用した事例のうち8割が介護度の維持・改善につながった。</p> <p style="text-align: right;">執筆協力：八雲町</p> <p>&lt;集いの場での体力測定の様子&gt;</p>  <p>&lt;短期集中型訪問時の様子&gt;</p> 	




<圏域内の市町村による取組事例>

小学生から高校生まで継続して行う認知症講座	長万部町
<p>&lt;取組の背景&gt;</p> <p>65歳以上の高齢者の内5人に1人は認知症といわれ、地域で暮らす認知症の方や家族が安心して生活できるよう、住民の理解がますます重要となっている。感染症予防のため、子どもが高齢者と交流する機会が減って高齢者の生活についてイメージがもちにくくなっている。小・中・高それぞれ年1回認知症サポーター養成講座を行っており、学生が継続して受講している。なお、少子化により町内の学校は閉校していき、R4年度から小学校、中学校、高等学校が1校ずつとなった。</p> <p>&lt;取組の内容&gt;</p> <p>小学6年生、中学1年生、高校2年生を対象に、それぞれ授業の1コマで認知症サポーター養成講座を実施。</p> <p>&lt;工夫している点&gt;</p> <p>事前・事後アンケートの集計や教員との打合せをすることで、学生の理解度や講座で説明してほしい内容について検討している。</p> <p>小学6年生には、講座の導入で高齢者の身体の変化について説明。中学1年生の多くは講座の受講歴があって内容も覚えており、より理解を深める内容で行っている。</p> <p>&lt;実感している効果&gt;</p> <p>講座の内容は幅広く一度で全て理解するのは難しいが、継続して受講する機会があることで、理解をより深められていると思われる。</p> <p style="text-align: right;">執筆協力：長万部町</p> <p>&lt;授業の風景&gt;</p> <div data-bbox="229 1272 751 1646"></div> <div data-bbox="855 1272 1382 1646"></div> <div data-bbox="512 1655 1034 2004"></div>	

<圏域内の市町村による取組事例>

地域生活支援体制整備事業の推進	今金町
<p>&lt;取組の背景&gt;</p> <p>本町は、渡島半島の北部、檜山管内の北端にあつて、北緯42°25'に位置し、東は美利河峠を境として長万部町、西は利別目名川を境としてせたな町、南は日進峠を境に八雲町、北は利別岳、長万部岳に連なる山地の尾根を境に島牧村と接しており、四方が概ね山岳丘陵に囲まれた内陸地である。</p> <p>人口は4,673人、そのうち65歳以上の人口は1,997人であり、高齢化率は42.7%となっている。</p> <p>このように、高齢化が進む一方で、高齢者福祉に関わる多様なサービスの中には、知られていないために利用が進んでいないものや、サービスを受けるとのことへの心理的抵抗感から利用が進んでいないものもある。</p> <p>高齢者福祉に関わる多様なサービスの中には、知られていないために利用が進んでいないものや、サービスを受けるとのことへの心理的抵抗感から利用が進んでいないものもある。</p> <p>&lt;取組の内容&gt;</p> <p>必要とする人に必要とするサービスが繋がるよう、今金町においては、生活支援コーディネーターを今金町社会福祉協議会へ委託し設置している。</p> <p>生活支援コーディネーターは、高齢者の生活支援・介護予防サービス等の体制整備を推進していくことを目的として、地域包括支援センターと緊密な連携を図りながら、地域に不足するサービスの創出や担い手の養成、互助の強化から住民主体による参加と活動の地域づくりなど、生活支援体制の構築に向けたコーディネートを行っている。</p> <p>&lt;工夫している点&gt;</p> <p>生活支援等の基盤整備に向けて、多様な主体の参画が求められていることから今金町が主体となり、「定期的な情報共有・連携強化の場」を目的とした協議体を「今金町介護予防推進協議会」が担っている。</p> <p>多様な主体間の情報共有及び連携協働による資源開発等を積極的に協議している。</p> <p>【協議体の役割】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・生活支援コーディネーターの組織的な補完 ・地域ニーズの把握</li><li>・情報の見える化の推進 ・企画・立案・方針策定を行う場</li><li>・地域づくりにおける意識の統一を図る場 ・情報交換の場 ・働きかけの場</li></ul> <p>&lt;実感している効果&gt;</p> <p>サロン活動の取り組みの他、医療・介護関係者が集まり介護予防推進協議会を通じて、他町の取り組み状況の情報共有、新たなサロン活動の掘り起こしに繋げるグループワークをする等、今後のさらなる活性化を図るための取り組みができています。</p> <p style="text-align: right;">執筆協力：今金町</p>	

<圏域内の市町村による取組事例>

住民主体の複合的な目的の通いの場「みなカフェ」	千歳市
<p>&lt;取組の背景&gt;          新型コロナウイルス感染症が拡大する中で、地域の高齢者が外出し、交流する機会を創出する必要があったことから、地域包括支援センターが中心となり、生活支援コーディネーターや認知症地域支援推進員、民生委員などが連携・協力して「みなカフェ」を開始した。</p> <p><b>コンセプト</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 介護予防を目的とし、心身の状態に関係なく利用できるインフォーマルな受け皿づくり</li> <li>○ 地域住民の繋がりが維持できるように、心地の良い居場所づくり</li> <li>○ 住民がお互いに支えられることで、生きがいにつながる仕組みづくり</li> </ul> <p>&lt;取組の内容&gt;          デイサービスのような通いの場・地域住民の憩いの場・地域づくりの場としての機能を持つ場を、住民が主体となって作れるよう支援している。令和3年10月から開催し、月に1回開催している。</p> <p>【実施場所】 市内中心部にあるお寺の広間を借りて実施。</p> <p>【送迎】 なし。</p> <p>【実施メニュー】 介護予防教室・教育委員会の出前講座・市民活動団体による活動、ワークショップや発表の場</p> <p>【相談機能】 自助グループの活動（当事者、当事者家族の会）・地域包括支援センターの総合相談・認知症地域支援推進員の活動の場・ケアラー支援など</p> <p>【その他】 イートインコーナー、書籍、雑誌や新聞、セルフ脳トレコーナーなどを設置しているほか、野菜や就労施設のパンなどの出張販売に来てもらい買い物ができるようにする。</p> <p>&lt;工夫している点&gt;          ○地域包括支援センターがカフェを運営するというよりは、皆が集まりやすい場所を借り、協力してくれる団体や個人に集ってもらい、それぞれができることをして、心地よい居場所づくりを目指している。結果として、住民同士が支えあい、住民自身が自分の意思で役割を果たせる場となり、介護予防自立支援に繋がって行くということを目指している。</p> <p><b>「いつ来てもいいし、いつ帰ってもいい。そこに行けば、楽しく過ごせるし、ただ、いるだけでもいい。また来たくなる場を目指す」</b></p> <p>○皆が安心して活動できるよう、毎回「ボランティア行事保険」に加入している。</p> <p>&lt;実感している効果&gt;          一年間の実施で、毎回参加する方や、午前午後を通して参加する方がいる。その中で、コミュニケーションが活発になり、参加する側から、アクティビティを実施する側になる方もいて、住民の活動の場、仲間づくりの場になっていることを実感している。参加者協力者合わせ、毎回30名～40名が活動している。</p> <p style="text-align: right;">執筆協力：千歳市南区地域包括支援センター</p> <p>&lt;取組の様子&gt;</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>	

<圏域内の市町村による取組事例>

余市町服薬状況報告シートの活用について（在宅医療・介護連携推進事業）	余市町
<p>&lt;取組の背景&gt;</p> <p>本町では、令和元年より、地域包括ケアシステム構築に向け、余市町医療・介護連携推進協議会の部会（医師・薬剤師・ケアマネ・医療相談員・介護職員等）を毎月開催し在宅医療・介護連携推進事業の8つの事業のうち、（ア）地域の医療・介護資源の把握と（イ）医療・介護連携の課題の抽出を中心に話し合いを重ねた。その過程で事業所アンケートを行った結果、訪問看護師不足を課題と捉え、看護師でなくてもできることを他職種が補うことで、看護師を有効活用できないかと考え、薬の設置や服薬、残薬について薬剤師が代替えできるのではないかと結論に至った。</p> <p>&lt;取組の内容&gt;</p> <p>薬剤師の活用を検討するなかで訪問看護師不足解消の観点だけではなく、高齢者が薬を本当に飲めているのか、飲めておらず残薬がある場合は、医師の治療や投薬の判断にも影響があるとの意見があり、服薬状況報告シート（以下「シート」）の作成に繋がった。シートは、薬を適切に飲めていないことや残薬を情報提供者（ホームヘルパー等）が発見した場合、シートに記入し町内薬局薬剤師へFAX送信する。情報を受け取った薬剤師を中心に介護職、医療職が連携して本人の実態を把握し服薬改善等の支援に繋げる。※この仕組みは、モデル事業を経て、余市町内調剤薬局（余市薬剤師会）の協力のもと実施している。</p> <p>&lt;工夫している点&gt;</p> <p>FAXを利用するため誤送信対策として、氏名の各1文字目のみ表記（片仮名）とすることをルール化している。その他、情報提供者の記載が負担にならないよう、簡素化したシート作成を心掛けた。</p> <p>本格実施前に、薬剤師を講師にシート事業内容の説明を兼ねた余市町医療介護多職種連携研修会「お薬飲めてない！！を発見 どうしたらいいの」を実施し調剤薬局（薬剤師）との連携を深めることで、シート活用のハードルを下げる事ができた。</p> <p>&lt;実感している効果&gt;</p> <p>シートを活用するにあたり、ホームヘルパー等が床に落ちている薬をみて、もしかしたら「きちんと飲んでいない」などの視点を持つことができ、シート活用に繋がっている。その後、薬剤師から提案もあり、薬の一包化や日にちの記載、投薬日数の調整などが行われ改善に繋がったケースが数件あり事業効果を実感している。</p> <p style="text-align: right;">執筆協力：余市町</p> <p>&lt;服薬状況報告シートの運用方法イメージ図&gt;</p>	

<圏域内の市町村による取組事例>

病院・施設や自宅以外の「住まい」等の確保	小樽市
<p>&lt;取組の背景&gt; 本市は、人口107,908人（高齢化率41.6%） 本市の課題として、高齢化率が高いことや、また、坂道が多いことから、公共交通機関も遠く、タクシーも自宅まで上がってこられない所に住んでいる方も多く、移動手段に難のある方が多いことが挙げられる。</p> <p>&lt;取組の内容&gt; 小樽市新光E団地は、4階建て全70戸の公営住宅であり、そのうち1LDK20戸、2LDK10戸が高齢者向けシルバーハウジングとなっている。 団らん室を設けており、様々な教室を開いたり、交流の場としても活用している。</p> <p>&lt;工夫している点&gt; シルバーハウジング全戸に緊急通報システムを設置している。 生活援助員（午前中のみ）を常駐させており、シルバーハウジング入居者の安否確認、生活相談、軽度な家事支援のほか、緊急時の対応にあっている。</p> <p>&lt;実感している効果&gt; 施設に入るまでもないが、自宅での生活に不安を抱えているような人も少なくないため、高齢者に対する「住まい」の一つの選択肢として活用されている。</p> <p style="text-align: right;">執筆協力：小樽市</p> <p>&lt;シルバーハウジングの外観&gt;</p> <div data-bbox="169 1240 759 1680"></div> <div data-bbox="810 1240 1407 1680"></div>	



<圏域内の市町村による取組事例>

医療・介護関係機関との連携による支援	島牧村
<p>&lt;取組の背景&gt; 小規模自治体であり、医療機関は1か所、介護サービスは外部参入がなく、小規模多機能型居宅介護・訪問介護(予防訪問介護)・介護予防事業を指定管理制度や委託事業で実施している。 限られた資源の中で関係機関が連携することで、在宅生活の継続につながることを目的として実施。</p> <p>&lt;取組の内容&gt; 自治体内の医療機関(医師・看護師)、介護サービス事業所、社会福祉協議会、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、役場関係部署等にて、定期的(月1回)に協議の場をもち、個別ケース検討(退院時の支援に限らない)や各部門が抱えている課題を共有・解決に向けた協議を実施。</p> <p>&lt;工夫している点&gt; 医療・介護連携担当部署が、各関係部門毎に定期的なヒアリングを行い、各部門が抱えている課題について共有。</p> <p>&lt;実感している効果&gt; 個別ケース検討を通じて、関係機関のかかわりの中でゆるやかに見守っていくことにつながっている。 各部署が抱えている課題については、関係機関で共有し課題解決に向けた協議を行うことで地域課題としてとらえることができる。</p> <p style="text-align: right;">執筆協力：島牧村</p>	

<圏域内の市町村による取組事例>

多世代が集うコミュニティレストラン	寿都町
<p>&lt;取組の背景&gt;</p> <p>&lt;取組の内容&gt; 旧診療所を改修した地域密着型サービスセンター内に、寿都町と札幌市立大学との連携からつくられた「風のごはんや」。週1回（月曜日11～13時）のみの開店となっているが、平均50人前後が利用する。</p> <p>&lt;工夫している点&gt; 週ごとに料理人が入れ替わるワンディ・シェフの仕組みや、寿都高校ボランティア部もワンディ・シェフやイベント運営に関わるなど、様々な人たちの関りを大切にしている。</p> <p>&lt;実感している効果&gt; 赤ちゃん連れの若い母親のサロンのような場ともなっており、2階にある高齢者住宅の住民も赤ちゃんとのふれあいを楽しみにしている。様々な人が運営に関わることで、サービスセンター利用者だけではなく幅広い年齢の方々が利用し、いろいろな交流が生まれている。</p> <p style="text-align: right;">執筆協力：寿都町</p>	